

証券コード:5401



**新日鐵住金**

**NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL**

# 2014年度 3Q決算説明会

**執行役員財務部長**

**宮本 勝弘**

**2015年1月29日**

---

特に断りのない限り、本資料中の財務数値は連結数値

1. 2014年度3Q実績・通期見通し
2. 中期経営計画の進捗状況
3. ご参考
4. 参考データ

# 1. 2014年度3Q実績・通期見通し

# 2014年度第3四半期実績・通期見通しの概況

## 第3四半期の需給環境

- 国内鋼材需要：建設部門の季節要因による増はあったものの、一部製造業向けについては、消費税増税影響の継続等もあり、全体としては、ほぼ横ばいの状況
- 国際市況：中国からの輸出が高水準で推移しており、国際市況については弱含みの状況が継続

## 当社の取組み

- 鋼材消費の回復遅れの状況に鑑み、粗鋼は▲90万トン程度の減産を計画。市中在庫を含めた鋼材需給の適正化を図り、今後の需要本格回復に備える。
- 安定生産への取組みを強化。インフラ系も含め修繕費重点投入等予防保全を拡充。
- 海外新規JVの顧客認証獲得を含めた設備立ち上げに注力。

## 決算概況・通期見通し

- 第3四半期経常利益は、為替ストック等一過性の要因も多く、1,668億円と前期対比大幅増益
- VSB事業に関しては、原油価格下落に伴う事業環境悪化を見込み▲686億円の減損を計上
- 2014年度通期経常利益は、4,100億円程度と、前回公表より100億円増益となる見込み。
- 通期配当は5円/株(連結配当性向25%)を予定

# 国内主要需要分野の活動水準推移

	FY13			FY14										差異			
	上期	下期	年度	1Q	2Q	上期	*3		*2 *3		*2 *3		14/2Q → 14/3Q	14/上 → 14/下見	13年 → 14年見	14年見 (前回) → 14年見	
							3Q	4Q 見通し	(前回見込)	下期 見通し	(前回見込)	年度 見通し					
建設	住宅着工戸数 (万戸)	50	49	99	22	22	44	23	21	(45)	44	(89)	88	+1	-0	-11	-1
	非住宅着工面積 (万㎡)	2,915	2,712	5,627	1,398	1,336	2,734	1,409	1,335	(2,864)	2,744	(5,682)	5,478	+73	+10	-149	-204
	公共工事受注 *1 (10億円)	4,943	5,362	10,305	2,649	3,104	5,752	2,200	2,300	/	4,500	/	10,252	-904	-1,252	-52	/
自動車	完成車生産台数 (万台)	474	517	991	240	238	478	232	250	(495)	483	(975)	961	-6	+4	-30	-14
	完成車輸出台数 (万台)	235	228	463	109	115	224	120	122	(244)	241	(475)	465	+5	+18	+2	-10
	海外生産(8社) (万台)	788	846	1,634	427	415	842	437	/	/	/	/	/	+22	/	/	/
産業機械	大中型ショベル (千台)	38	42	80	19	21	39	16	16	(34)	32	(71)	71	-5	-8	-9	-0
	金属工作機械 (千ト)	154	190	344	108	123	231	109	112	(202)	221	(404)	452	-14	-10	+108	+48
造船	新造船起工 (万ゲロトン)	577	645	1,222	328	328	655	340	340	/	680	/	1,335	+13	+25	+113	/

リグカウントの状況	CY09平均	CY10平均	CY11平均	CY12平均	CY13平均	CY14平均*4	直近
米国	1,089	1,546	1,875	1,919	1,761	1,862	1,663 (15/1/23)
深井戸(≧15,000ft)	249	249	395	324	326	354	377 (14/11)
北米・露・中を除く世界	997	1,094	1,167	1,234	1,296	1,337	1,311 (14/12)

(出所:各種統計資料・当社推定) \*1 建設工事受注動態統計の公共工事受注額。

\*2 前回(2014/10/30)公表値 \*3 12月中旬見込み値 \*4 1~11月の平均値



新日鐵住金

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

# 国内主要需要分野の鋼材消費推移

(単位:万ト)	FY13			FY14								差異				
	上期	下期	年度	1Q	2Q	上期	3Q <sup>*2</sup>	4Q <sup>*2</sup> 見通し	<sup>*1</sup> 下期 見通し (前回見込)	<sup>*1</sup> 年度 見通し (前回見込)	<sup>*2</sup> 14/2Q → 14/3Q	14/上 → 14/下見	13年 → 14年見	14年見 (前回) → 14年見		
全国粗鋼生産量	5,582	5,571	11,152	2,767	2,789	5,556	2,754	2,730	5,484	11,040	-35	-72	-112			
国内鋼材消費	3,175	3,334	6,509	1,593	1,614	3,206	1,618	1,604	(3,278)	3,222	(6,471)	6,429	+4	+16	-80	-42
製造業比率 (%)	63.0	62.6	62.8	63.6	63.1	63.3	62.2	63.3	(62.2)	62.7	(62.6)	63.0	-0.9	-0.6	+0.2	+0.4
普通鋼鋼材消費	2,513	2,664	5,177	1,262	1,284	2,546	1,292	1,282	(2,625)	2,573	(5,165)	5,120	+8	+27	-57	-45
建設	1,116	1,185	2,301	551	566	1,116	582	560	(1,177)	1,142	(2,295)	2,258	+16	+26	-43	-37
製造業	1,397	1,478	2,875	712	718	1,430	710	722	(1,448)	1,431	(2,870)	2,861	-9	+1	-14	-9
ウチ、造船	195	216	411	109	111	220	114	114	(226)	228	(451)	448	+3	+8	+37	-3
ウチ、自動車	564	584	1,148	276	278	554	274	282	(573)	556	(1,128)	1,110	-4	+2	-38	-18
ウチ、産業機械	243	262	505	131	137	267	121	123	(243)	244	(497)	511	-15	-23	+6	+14
ウチ、電気機械	153	159	311	79	76	155	76	78	(158)	154	(317)	309	+0	-2	-2	-8
特殊鋼鋼材消費	662	670	1,332	330	330	660	327	322	(653)	649	(1,306)	1,309	-3	-11	-23	+3
鋼材輸入	277	378	655	176	176	352										
鋼材輸出	2,028	1,887	3,915	953	990	1,943										

(出所:各種統計資料・当社推定) \*1 前回(10/30)公表値 \*2 12月中旬見込み値

# 当社製鉄事業諸元

(単位:万ト)	FY13			FY14								差異				
	上期	下期	年度	1Q	2Q	上期	3Q	4Q 見通し	*2 下期 (前回見込) 見通し	*2 年度 (前回見込) 見通し	14/2Q → 14/3Q	14/上 → 14/下見	13年 → 14年見	14年見 (前回) → 14年見		
出銑量 *1	2,277	2,203	4,480	1,105	1,160	2,264	1,135	1,110	(2,330)	2,250	(4,590)	4,510	-25	-14	+30	-80
粗鋼生産量(連結)	2,427	2,389	4,816	1,186	1,216	2,402	1,183	1,180	(2,460)	2,360	(4,860)	4,760	-33	-42	-56	-100
粗鋼生産量(単独)	2,302	2,264	4,567	1,129	1,159	2,288	1,120	1,110	(2,320)	2,230	(4,610)	4,520	-39	-58	-47	-90
鋼材出荷量	2,097	2,105	4,202	1,043	1,068	2,111	1,032	1,070	(2,180)	2,100	(4,290)	4,210	-35	-11	+8	-80
シームレス出荷量	58	62	120	30	29	58	30	31	(60)	62	(118)	120	+1	+4	0	+2
鋼材平均価格 (千円/ト)	84.4	87.6	86.0	87.6	86.0	86.8	88.7	86	(85)	87	(86)	87	+2.7	0	+1	+1
鋼材輸出比率(% [金額ベース])	48	45	46	46	47	46	48	48	(47)	48	(47)	47	+1	+2	+1	0
為替レート(¥/\$)	98	102	100	102	103	103	113	115	(107)	114	(105)	108	10円安	11円安	8円安	3円安

\*1 北海製鉄・日鉄住金鋼鉄和歌山含み \*2 前回(10/30)公表値

# 2014年度第3四半期実績・通期見通し

(単位:億円)	FY13			FY14								差異				
	上期	下期	年度	1Q	2Q	上期	3Q	4Q 見通し	*1 (前回見込)	下期 見通し	*1 (前回見込)	年度 見通し	14/2Q → 14/3Q	14/上 → 14/下見	13年 → 14年見	14年 (前回) → 14年見
売上高	26,745	28,415	55,161	13,614	14,170	27,784	14,032	14,684	(28,716)	28,716	(56,500)	56,500	-138	+932	+1,339	+0
営業利益	1,392	1,590	2,983	596	758	1,355	1,196						+438			
経常利益	1,736	1,874	3,610	743	1,020	1,763	1,668	669	(2,237)	2,337	(4,000)	4,100	+648	+574	+490	+100
特別損益	165	215	380	-	-49	-49	-734						-685			
当期利益	1,155	1,271	2,427	483	639	1,122	413	265	(1,378)	678	(2,500)	1,800	-226	-444	-627	-700
[一株当り 当期利益]	[12.7]	[13.9]	[26.7]	[5.3]	[7.0]	[12.3]	[4.5]	[3]	[15.1]	[7]	[27]	[20]	[-2.5]	[-5]	[-7]	[-7]
EBITDA	3,007	3,294	6,302	1,358	1,542	2,901	2,009						+467			
EBITDA / Sales	11.2%	11.6%	11.4%	10.0%	10.9%	10.4%	14.3%						+3.4%			
ROS	6.5%	6.6%	6.5%	5.5%	7.2%	6.3%	11.9%	4.6%	(7.8%)	8.1%	(7.1%)	7.3%	+4.7%	+1.8%	+0.8%	+0.2%
ROE	9.4%	9.8%	9.6%	7.2%	9.2%	8.2%	5.8%						-3.4%			

\*1 前回(10/30)公表値

# 特別損益について

(単位:億円)	FY14			
	1Q	2Q	上期	3Q
投資有価証券売却益	—	52	52	9
特別利益	—	52	52	9
設備休止関連損失	—	-101	-101	-57
関係会社事業損失	—	—	—	-686
特別損失	—	-101	-101	-743
特別損益	—	-49	-49	-734

**\*1**  
**VSBI関連事業損失 - 686億円** ←  
 (VSBIに対する投資(投資有価証券)について連結決算にて減損処理)

**損失発生** 原油価格下落に伴い、VSBI製造品の需給悪化が見込まれ、  
**の理由:** VSBI事業の将来収益・将来キャッシュフロー見通しの見直しを実施したため

**再建策:** Vallourec社と共同で、VBRとの操業連携を通じたシナジー効果等、  
 当事業の収益を高めるあらゆる可能性について検討中

\*1 VSBI事業: VSBIはVallourec社とのブラジルにおけるシームレス鋼管製造合弁会社。販売は両親会社が個別に行っている。

\*2 VBR: ブラジルにあるVallourec社の子会社。シームレス鋼管を製造・販売。

# 《ご参考》

## VSBの概要

- 会社名 : VALLOUREC & SUMITOMO TUBOS DO BRASIL LTDA.  
 所在地 : ブラジル国ミナスジェライス州  
 資本金 : 5,376百万ブラジルリアル  
 設立時期 : 2007年7月  
 出資比率 : Vallourecグループ56.0%、  
 新日鐵住金グループ40.4%、住友商事3.6%  
 事業内容 : シームレス鋼管等の製造（販売は両親会社）  
 製造能力 : シームレス鋼管 60万トン/年  
 主要設備 : 製鉄・製鋼他上工程設備、シームレス鋼管製造・精整設備  
 従業員数 : 約 2,400名



**VSB**  
シームレス鋼管の  
製造



販売



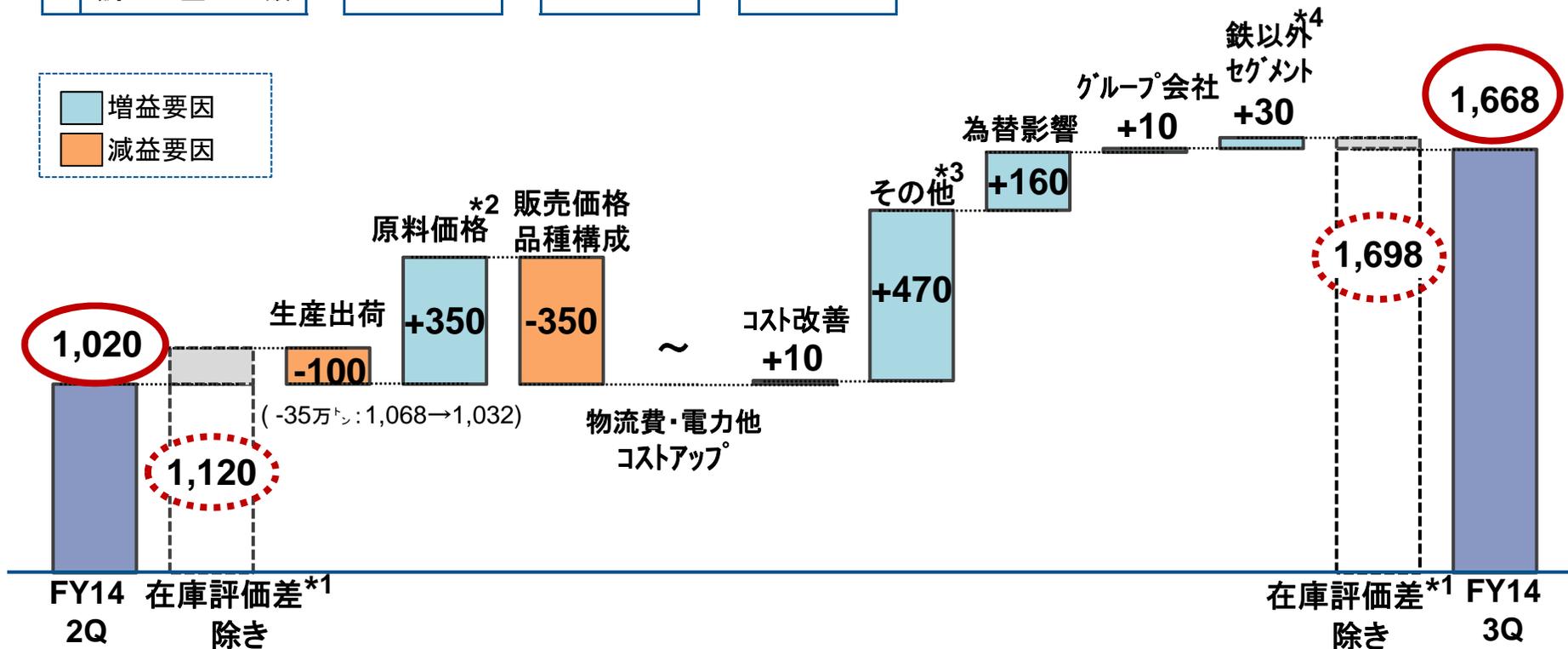
販売



# 経常損益分析 (14/2Q→14/3Q)

(単位:億円)	FY14/2Q [A]	FY14/3Q [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>1,020</b>	<b>1,668</b>	<b>+648</b>
製鉄	881	1,488	+607
鉄以外セグメント	111	145	+34
調整額	26	33	+7

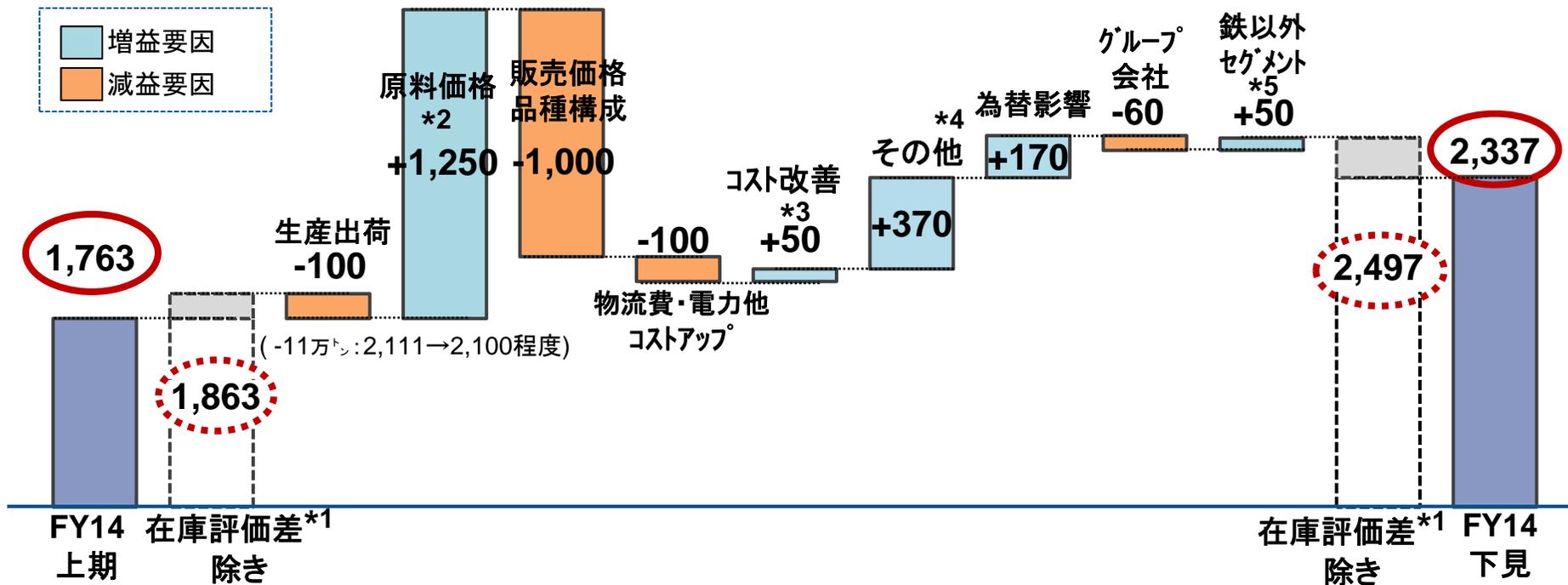
- \*1 在庫評価差  
FY14/2Q:-100 → FY14/3Q:-30
- \*2 キャリーオーバー影響、市況原料含む
- \*3 名古屋影響+35、販売価格決着ズレ、設備の償却・除却関係等を含む
- \*4 エンジニアリング+50(季節差)、化学-15、新素材～、システムソリューション-1



# 経常損益分析 (14上期→14下期見通し)

(単位:億円)	FY14上期 [A]	FY14下期 見通し [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>1,763</b>	<b>2,337</b>	<b>+574</b>
製鉄	1,591	2,079	+488
鉄以外セグメント	176	224	+48
調整額	-5	35	+40

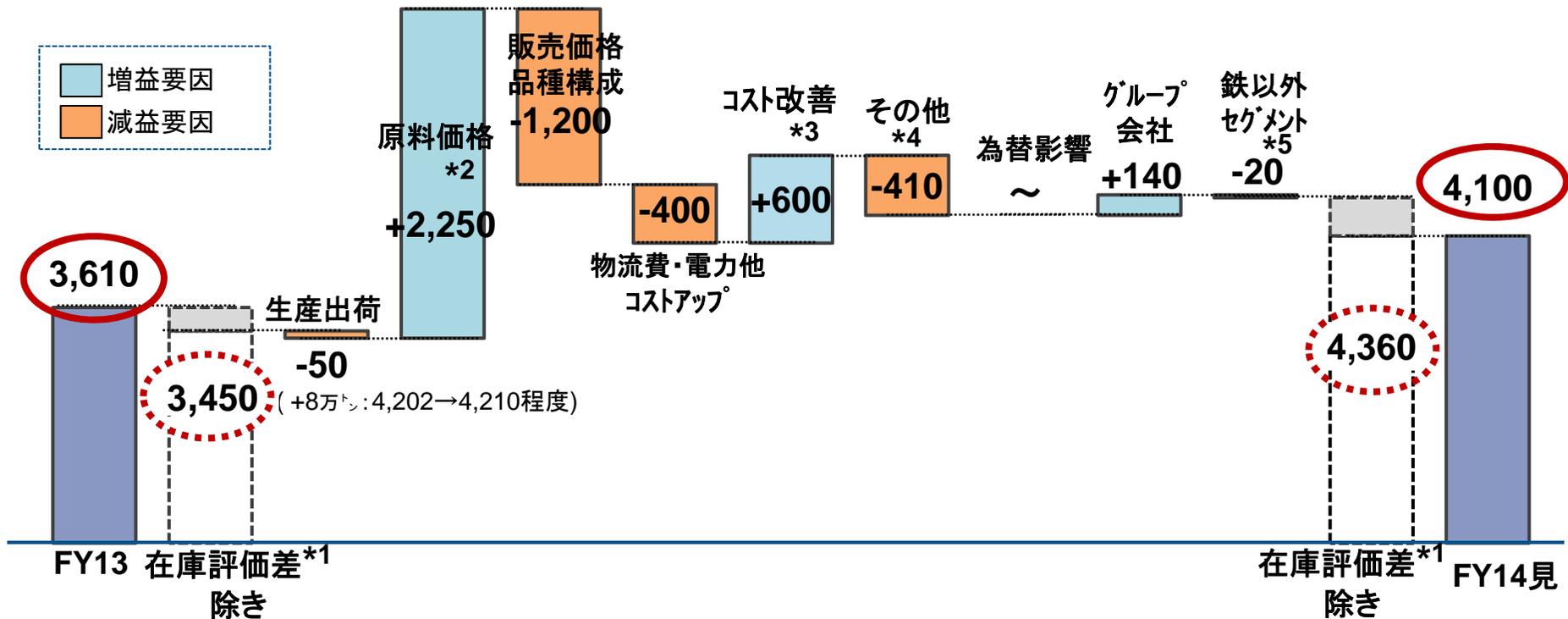
- \*1 在庫評価差  
FY14/上:-100 → FY14/下見:-160
- \*2 キャリーオーバー影響、市況原料含む
- \*3 統合効果(+140)含む
- \*4 高炉改修影響:+100(FY14/上-100→FY14/下見~)、名古屋影響:+20(FY14/上-170→FY14/下見-150)等を含む。
- \*5 エンジニアリング+70(季節差)、化学-30、新素材~、システムソリューション+10



# 経常損益分析 (13→14見通し)

(単位:億円)	FY13 [A]	FY14 見通し [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>3,610</b>	<b>4,100</b>	<b>+490</b>
製鉄	3,212	3,670	+458
鉄以外セグメント	419	400	-19
調整額	-21	30	+51

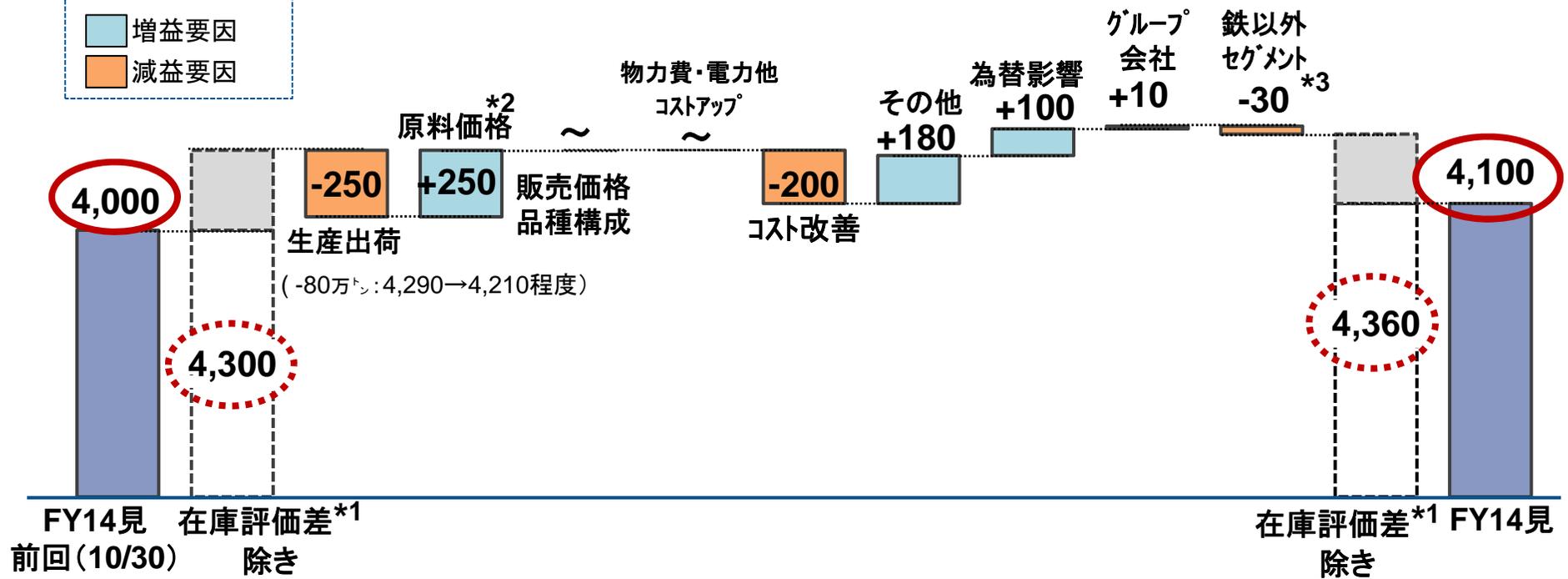
- \*1 在庫評価差  
FY13:+160 → FY14見:-260
- \*2 キャリオーバー影響、市況原料含む
- \*3 統合効果+400含む
- \*4 名古屋影響-240等を含む
- \*5 エンジニアリング-10、化学-40、  
新素材+5、システムソリューション+25



# 経常損益分析 (14見通し(前回10/30)→14見通し)

(単位:億円)	FY14 見通し (前回10/30) [A]	FY14 見通し [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>4,000</b>	<b>4,100</b>	<b>+100</b>
製鉄	3,550	3,670	+120
鉄以外セグメント	430	400	-30
調整額	20	30	+10

- \*1 在庫評価差  
FY14見(前回): -300 → FY14見: -260
- \*2 キャリーオーバー影響、市況原料含む
- \*3 エンジニアリング～、化学-30、  
新素材～、システムソリューション～



# 製鉄以外セグメント概況

売上高・経常利益推移 (単位:億円)  
(4セグメント合計)



2014年度 経常損益動向見通し (前年対比)

エンジニアリング事業	→ 横這い	: コスト削減・収益改善の推進も、プロジェクト構成差等により若干減益
化学事業	↓ 減益	: 化学品市況下落の影響によるマージン悪化 他
システムソリューション事業	↑ 増益	: 販売管理費増加も、業務ソリューション・ビジネスサービスを中心に増益
新素材事業	↑ 増益	: 金ワイヤの銅化で減収も、コスト改善努力の推進により増益

(単位:億円)

エンジニアリング事業	2013年度		2014年度見	
	1~3Q		1~3Q	
売上高	2,038	3,141	2,445	3,300
経常利益	76	177	127	165

化学事業	2013年度		2014年度見	
	1~3Q		1~3Q	
売上高	1,742	2,301	1,657	2,100
経常利益	100	100	63	60

システムソリューション事業	2013年度		2014年度見	
	1~3Q		1~3Q	
売上高	1,217	1,798	1,431	1,950
経常利益	73	127	111	155

新素材事業	2013年度		2014年度見	
	1~3Q		1~3Q	
売上高	284	372	273	360
経常利益	14	13	19	20

# 貸借対照表

(億円) 2014/3月末

流動資産 22,733	その他負債 15,479
固定資産 48,089	有利子負債 22,963
	自己資本 26,836
	5,543

少数株主持分

(億円) 2014/12月末

流動資産 23,832	その他負債 16,965
固定資産 48,044	有利子負債 20,402
	自己資本 28,826
	5,684

少数株主持分

		14/3	14/12	増減
総資産	(億円)	70,822	71,877	+1,054
有利子負債	(億円)	22,963	20,402	-2,561
自己資本	(億円)	26,836	28,826	+1,990
D/Eレシオ	(倍)	0.86	0.71	-0.15

# 当期末の剰余金の配当方針について

当期末の剰余金の配当につきましては、平成27年3月期第2四半期決算発表時において未定としておりましたが、既公表の配当方針に従い、当期の業績見通し等を踏まえ、1株につき3円(年間配当金としては1株につき5円、連結配当性向25%)とさせていただく方針と致します。

## < 利益配分に関する基本方針 >

当社は、業績に応じた利益の配分を基本として、企業価値向上に向けた投資等に必要な資金所要、先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を勘案しつつ、第2四半期末及び期末の剰余金の配当を実施する方針と致しております。

「業績に応じた利益の配分」の指標としては、連結配当性向年間20%程度を基準と致します。

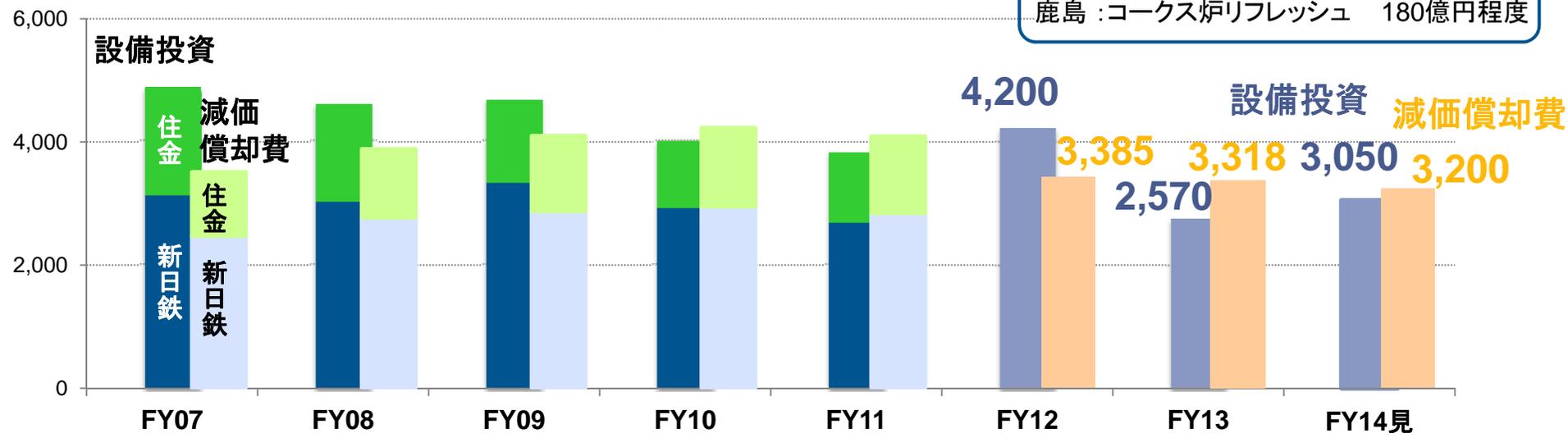
# 設備投資・減価償却費

(単位:億円)

新日鐵住金 (上段:新日鉄 下段:住金)	FY07	FY08	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14 見通し
設備投資額 <工事ベース>	4,900 (3,100) (1,788)	4,600 (3,000) (1,591)	4,650 (3,300) (1,366)	4,000 (2,900) (1,099)	3,800 (2,650) (1,157)	4,200	2,570	3,050
減価償却費	3,465 (2,440) (1,025)	3,835 (2,737) (1,098)	4,048 (2,840) (1,208)	4,177 (2,915) (1,262)	4,038 (2,809) (1,229)	3,385	3,318	3,200

主要設備投資案件

君津 : 第4コークス炉改修 290億円程度  
鹿島 : コークス炉リフレッシュ 180億円程度



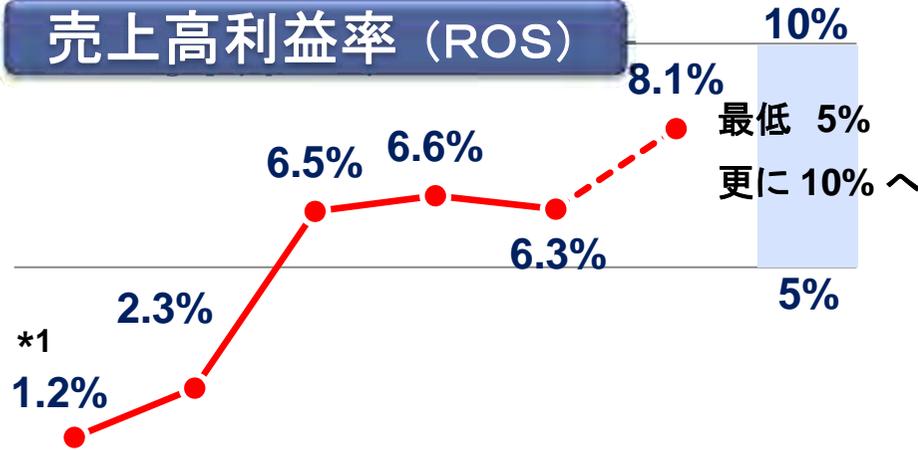
※ 設備投資額 : FY07~12の新日鐵住金は、新日鉄と住金の合算値を50億円単位で四捨五入

## 2. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画の進捗状況

# ① 定量的指標の推移

## 売上高利益率 (ROS)



上期	下期	上期	下期	上期	下見	目標
12年度		13年度		14年度		

## 資産圧縮【億円】



上期	下期	上期	下期	上期	下見	目標
12年度		13年度		14年度		

## D/Eレシオ



3Q	下期	上期	下期	上期	3Q	目標
12年度		13年度		14年度		

## 統合効果【億円】



上期	下期	上期	下期	上期	下見	目標
12年度		13年度		14年度		

\*1 FY12上期：旧両社合算ベース

水素社会の実現に向け、当社グループ技術が貢献  
全国の商用水素ステーションの半数以上で「HRX19®」を採用

「HRX19®」:当社で開発し日鉄住金ステンレス鋼管と製造・販売を開始

以下の特長により、商用水素ステーションの配管やバルブ・継手等に採用

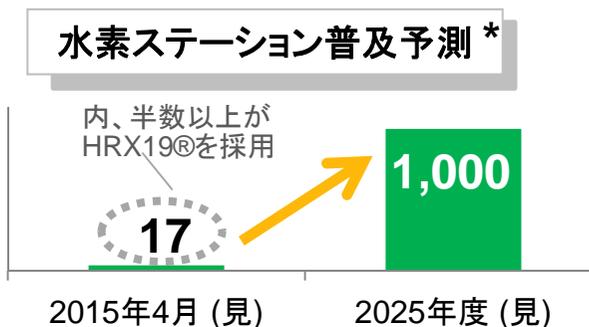
①耐水素脆性: 金属材料でトップクラスの耐水素脆性  
⇒ステーション配管の長寿命化及び安全性向上

②高強度材料: 既存材に比べ約2倍の強度、且つ薄肉・軽量  
⇒内径拡大による大容量、短時間水素充填を実現、  
また、軽量化によるコスト削減メリットも

③溶接施工性: 溶接法適用が可能に  
⇒施工及びメンテナンスコスト  
の削減へ貢献



左:既存材(SUS316L)、右2本:HRX19®



東京ガス(株)HPより

\* 水素ステーション普及予測 出典:燃料電池実用化推進協議会(FCCJ)

## 衝突安全性に優れた造船用鋼板で安全輸送へ貢献

### 今治造船の新規竣工船:「NSafe®-Hull」を新たに採用

「NSafe®-Hull」: 当社開発の衝突安全性に優れた高延性造船用鋼板  
従来材に比べ、鋼板の伸びが大きくエネルギー吸収量が多い  
⇒船舶側面から衝突された際、穴が開くまでの衝撃吸収エネルギーが約**3**倍

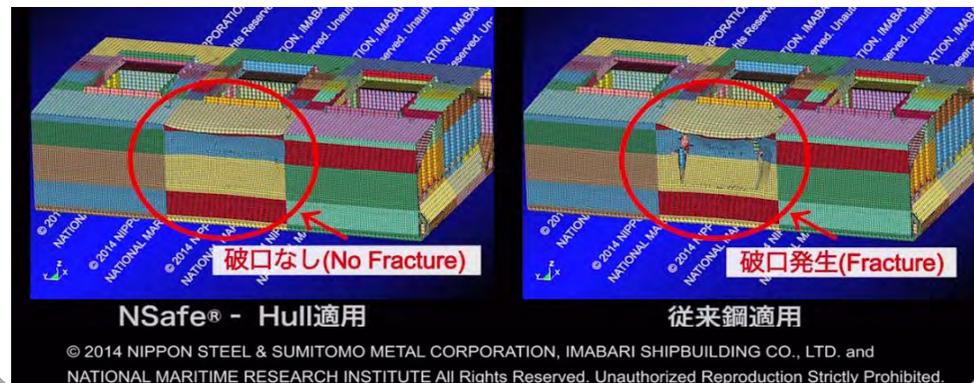
燃料タンク部などの高い衝突安全性が求められる部位へ採用  
⇒浸水防止や貨物保護、環境汚染につながる油流出防止へ貢献

#### NSafe®-Hull採用部位 (赤色および黄色)



載荷重量: 206.6千トン、全長: 299.94m、幅: 50m、  
深さ: 24.7m NSafe®-Hull : 使用量 **3,000**トン

#### 衝突シミュレーションの一例 (12ノット衝突後 1.4秒後)



© 2014 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION, IMABARI SHIPBUILDING CO., LTD. and NATIONAL MARITIME RESEARCH INSTITUTE All Rights Reserved. Unauthorized Reproduction Strictly Prohibited.

社名( %: 当社グループ出資比率)		投資額 *	主要設備	製造能力	FY13	FY14	FY15
自動車用鋼板等	 <b>AM/NS Calvert</b> 50% (アメリカ) (ArcelorMittal とのJV)	約 15.5億\$ (買収金額総額)	熱延、冷延 CGL等	530万トン/年 - 熱延	★ 14/2		
	 <b>TENIGAL</b> 49% (メキシコ) (Ternium とのJV)	約 300百万\$	CGL	40万トン/年	★ 13/8		
	 <b>JCAPCPL</b> 49% (インド) (TATA とのJV)	約 400億円	CAPL	60万トン/年		★ 14/5	
	 <b>KNSS</b> 80% (インドネシア) (PTKSとのJV)	約 300百万\$	GAPL	48万トン/年			FY17 稼働開始
	 <b>NSGT</b> 100% (タイ)	約 300百万\$	CGL	36万トン/年	★ 13/10		
	 <b>ICI</b> 80% (アメリカ) (No4 鍛造プレスライン新設)	約 46百万\$	No4 鍛造 プレスライン	約 130万本/年	鍛造プレス能力 (270万本→400万本)		★ FY15稼働開始
	 <b>BNA</b> 50% (中国) (宝鋼とのJV)	約 11 億元	No4 CGL 新設	42万トン/年	CGL能力 (125万トン→167万トン)		★ FY15稼働開始
建材	 <b>NSBS</b> 50% (シンガポール他) (BlueScopeとのJV)	554百万\$ (グループ総額)	CGL等	140万トン/年 - CGL	★ 13/3 JV設立		
	 <b>CSVC</b> 30% (ベトナム) (CSC とのJV)	約 1,150百万\$ (JV 合計額)	CDCM	120万トン/年	★ 13/4		
	 <b>KOS</b> 80% (インドネシア) (大阪製鐵とPTKS とのJV)	約 200百万\$	中小形形鋼、 鉄筋棒鋼、平鋼	約 50万トン/年			FY16 稼働開始
鋼管	 <b>VAM® BRN</b> 未定 (ブルネイ) (住友商事 とのJV) 	約 36百万\$	小径ネジ切りライン、 中径ネジ切りライン	1.8万トン/年			FY16 稼働開始

\* 合併契約締結時、又は意思決定時における公表数値。

事業基盤強化に向け、最適生産体制の構築を推進中

◆当社における取組み：設備休止等スケジュール

品種	製鉄所	休止/稼働延期	ライン	FY13	FY14	FY15
上工程	君津	休止	第3高炉	4Q		
			第5連铸機	2Q完了		
	和歌山	稼働延期	第2高炉			
薄板	鹿島	休止	No.2 酸洗、No.1 冷延、No.1 連続焼鈍、バッチ焼鈍、No.1 溶融亜鉛めっき、No.2 電気亜鉛めっき	4Q		
	和歌山	休止	No.3 酸洗、No.1 冷延、溶融めっき、連続焼鈍(電磁鋼板)	1Q完了		
	名古屋	休止	No.4 溶融亜鉛めっき	1Q完了		
			電気亜鉛めっき	4Q		
君津	休止	No.1 連続焼鈍	3Q完了			
鋼管	君津	休止	鍛接鋼管	4Q完了		

◆子会社における取組み：設備休止等スケジュール

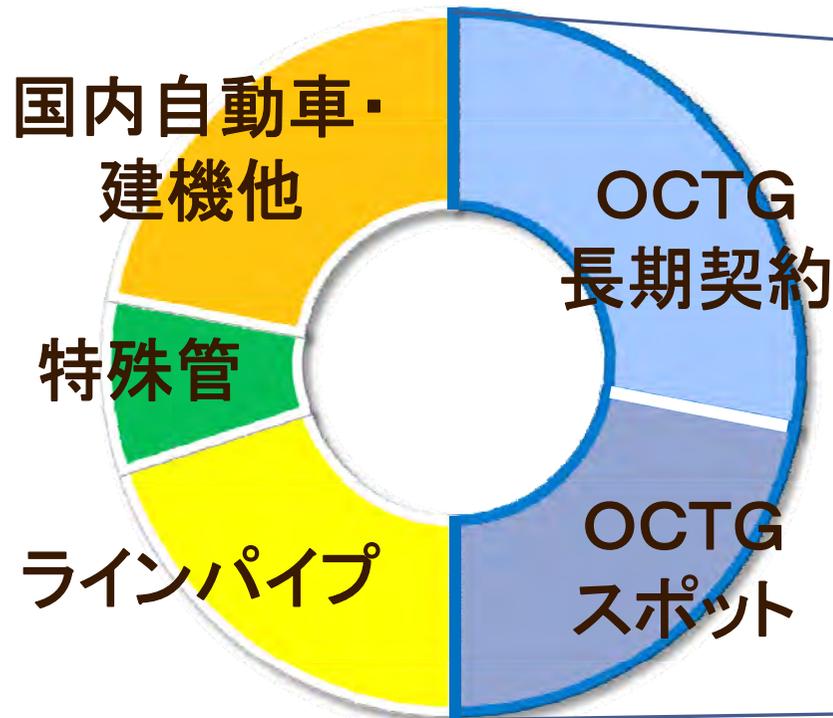
会社名	内容	FY13	FY14	FY15
日鉄住金鋼管 (電縫管事業最適化)	和歌山製造所24インチミル休止	3Q完了		
	堺製造所の休止(15年8月末)、川崎製造所の休止(15年11月末)	2Q~3Q		
日鉄住金鋼板 (薄板鋼板事業最適化)	西日本製造所(尼崎地区)の酸洗・冷延設備休止	4Q完了		
	船橋製造所の酸洗・冷延設備休止	1Q完了		

### 3. ご参考

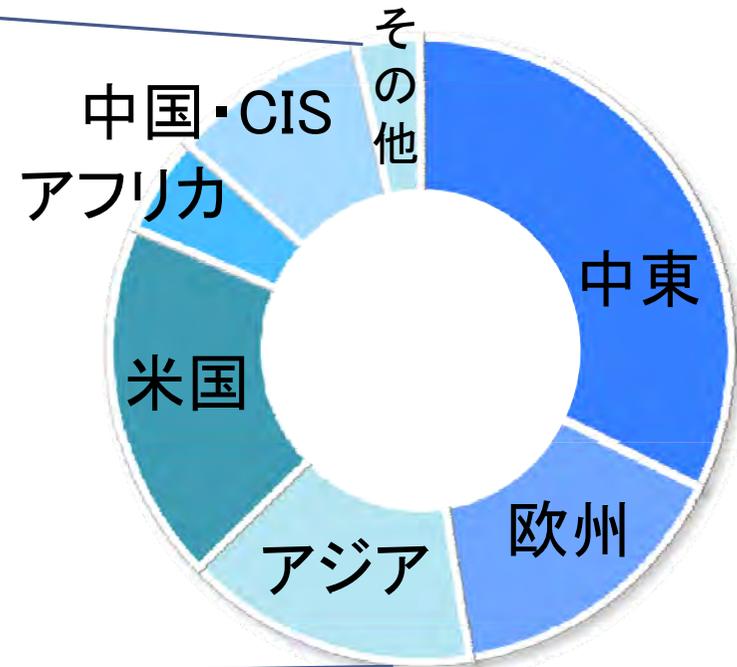
# 《ご参考》 シームレス鋼管事業の状況

シームレス鋼管 出荷量	FY2013	➔	FY2014 (見)	<FY14前回見>*
	<b>120</b> 万トン		<b>120</b> 万トン	< <b>118</b> 万トン >

## 当社シームレス鋼管 分野別販売構成



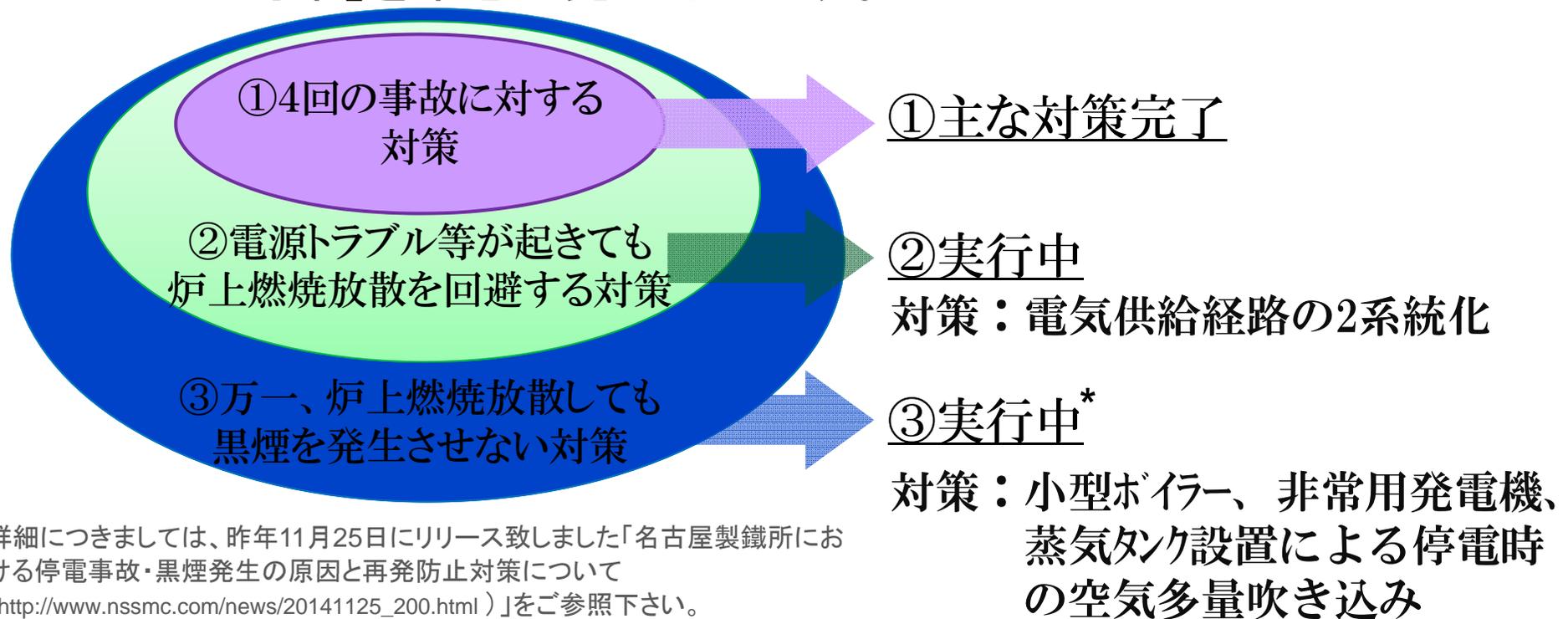
## OCTG 販売地域構成



\* 前回(2014/10/30)公表値

昨年発生した名古屋製鐵所における停電事故(4回)について、外部有識者の方々を交えた「停電事故対策委員会」にて作成した報告書を昨年11月25日に公表いたしました

停電による黒煙発生で皆様にご迷惑をお掛けしないため、「3重の対策」を早急に完了させます。



詳細につきましては、昨年11月25日にリリース致しました「名古屋製鐵所における停電事故・黒煙発生の原因と再発防止対策について ([http://www.nssmc.com/news/20141125\\_200.html](http://www.nssmc.com/news/20141125_200.html))」をご参照下さい。

\* 小型ボイラー、非常用発電機の設置は完了

## 4. 参考データ

# 世界の経済成長率推移

<2015年1月20日IMF改定値>

前回 (2014.10.7)

	CY08	CY09	CY10	CY11	CY12	CY13	CY14	CY15 見通し	CY16 見通し
<b>世界合計</b>	<b>3.0</b>	<b>-0.5</b>	<b>5.3</b>	<b>3.9</b>	<b>3.4</b>	<b>3.3</b>	<b>(3.3) 3.3</b>	<b>(3.8) 3.5</b>	<b>3.7</b>
<b>先進諸国</b>	<b>0.5</b>	<b>-3.4</b>	<b>3.2</b>	<b>1.7</b>	<b>1.2</b>	<b>1.3</b>	<b>(1.8) 1.8</b>	<b>(2.3) 2.4</b>	<b>2.4</b>
<b>米国</b>	<b>0.4</b>	<b>-2.6</b>	<b>3.0</b>	<b>1.8</b>	<b>2.3</b>	<b>2.2</b>	<b>(2.2) 2.4</b>	<b>(3.1) 3.6</b>	<b>3.3</b>
<b>欧州</b>	<b>0.6</b>	<b>-4.1</b>	<b>1.9</b>	<b>1.5</b>	<b>-0.7</b>	<b>-0.5</b>	<b>(0.8) 0.8</b>	<b>(1.3) 1.2</b>	<b>1.4</b>
<b>日本</b>	<b>-1.2</b>	<b>-6.3</b>	<b>4.4</b>	<b>-0.6</b>	<b>1.5</b>	<b>1.6</b>	<b>(0.9) 0.1</b>	<b>(0.8) 0.6</b>	<b>0.8</b>
<b>新興諸国</b>	<b>6.1</b>	<b>2.7</b>	<b>7.5</b>	<b>6.2</b>	<b>5.1</b>	<b>4.7</b>	<b>(4.4) 4.4</b>	<b>(5.0) 4.3</b>	<b>4.7</b>
<b>中国</b>	<b>9.6</b>	<b>9.2</b>	<b>10.4</b>	<b>9.3</b>	<b>7.7</b>	<b>7.8</b>	<b>(7.4) 7.4</b>	<b>(7.1) 6.8</b>	<b>6.3</b>
<b>インド</b>	<b>7.3</b>	<b>6.8</b>	<b>10.6</b>	<b>6.3</b>	<b>4.7</b>	<b>5.0</b>	<b>(5.6) 5.8</b>	<b>(6.4) 6.3</b>	<b>6.5</b>
<b>ASEAN5*</b>	<b>4.7</b>	<b>1.7</b>	<b>7.0</b>	<b>4.5</b>	<b>6.2</b>	<b>5.2</b>	<b>(4.7) 4.5</b>	<b>(5.4) 5.2</b>	<b>5.3</b>
<b>ロシア</b>	<b>5.6</b>	<b>-7.8</b>	<b>4.3</b>	<b>4.3</b>	<b>3.4</b>	<b>1.3</b>	<b>(0.2) 0.6</b>	<b>(0.5) -3.0</b>	<b>-1.0</b>
<b>ブラジル</b>	<b>5.1</b>	<b>-0.6</b>	<b>7.5</b>	<b>2.7</b>	<b>1.0</b>	<b>2.5</b>	<b>(0.3) 0.1</b>	<b>(1.4) 0.3</b>	<b>1.5</b>

(出所: IMF)

\* ASEAN 5 : タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム



**新日鐵住金**

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

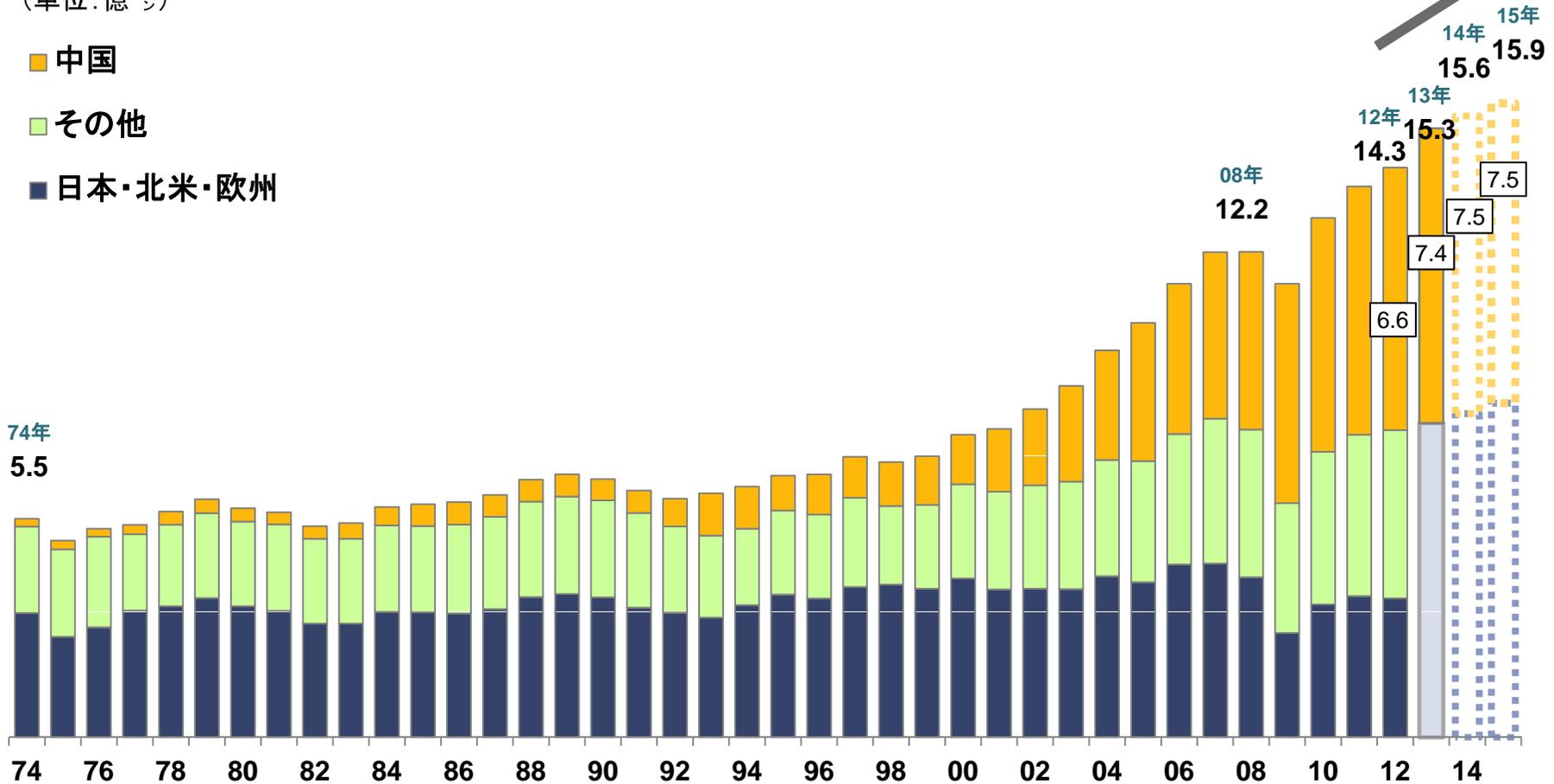
# 世界の鉄鋼需要推移(鋼材見掛消費)



(単位: 億トン)

- 中国
- その他
- 日本・北米・欧州

'13年以降 約 **+2~3** %/年



(出所: World Steel Association) \*13年実績、14~15年予測(14年10月World Steel Association 発表)

# 世界月別粗鋼生産量

(百万トン)	CY13 [A]	CY14					[B]	差異 (A → B)
		1-9	10	11	12	10-12		
世界計* (前年同期比)	1,582.5 (+4.0%)	1,227.1 (+3.4%)	136.4 (+1.6%)	130.3 (+1.7%)	143.1 (+7.1%)	409.8 (+3.5%)	1,637.0	+54.5 (3.4%)
日本 (前年同期比)	110.6 (+3.1%)	83.1 (+0.8%)	9.4 (-1.7%)	9.2 (-1.1%)	9.0 (-3.6%)	27.5 (-2.1%)	110.7	+0.1 (0.1%)
韓国 (前年同期比)	66.0 (-4.4%)	53.3 (+9.5%)	6.1 (+3.9%)	5.9 (+4.7%)	5.8 (-1.6%)	17.7 (+2.3%)	71.0	+5.0 (7.6%)
米国	87.0	66.4	7.4	7.2	7.4	22.0	88.3	+1.4
EU28	165.8	127.8	14.7	14.2	12.6	41.5	169.2	+3.4
ロシア	69.4	53.1	5.7	5.8	5.9	17.5	70.7	+1.2
ブラジル	34.2	25.6	3.1	2.7	2.6	8.4	33.9	-0.3
インド	81.2	62.5	6.8	6.8	7.1	20.7	83.2	+2.0
中国 (前年同期比)	779.0 (+8.7%)	614.4 (+4.8%)	67.5 (+3.7%)	63.3 (+4.0%)	77.5 (+16.0%)	208.3 (+8.1%)	822.7	+43.7 (5.6%)

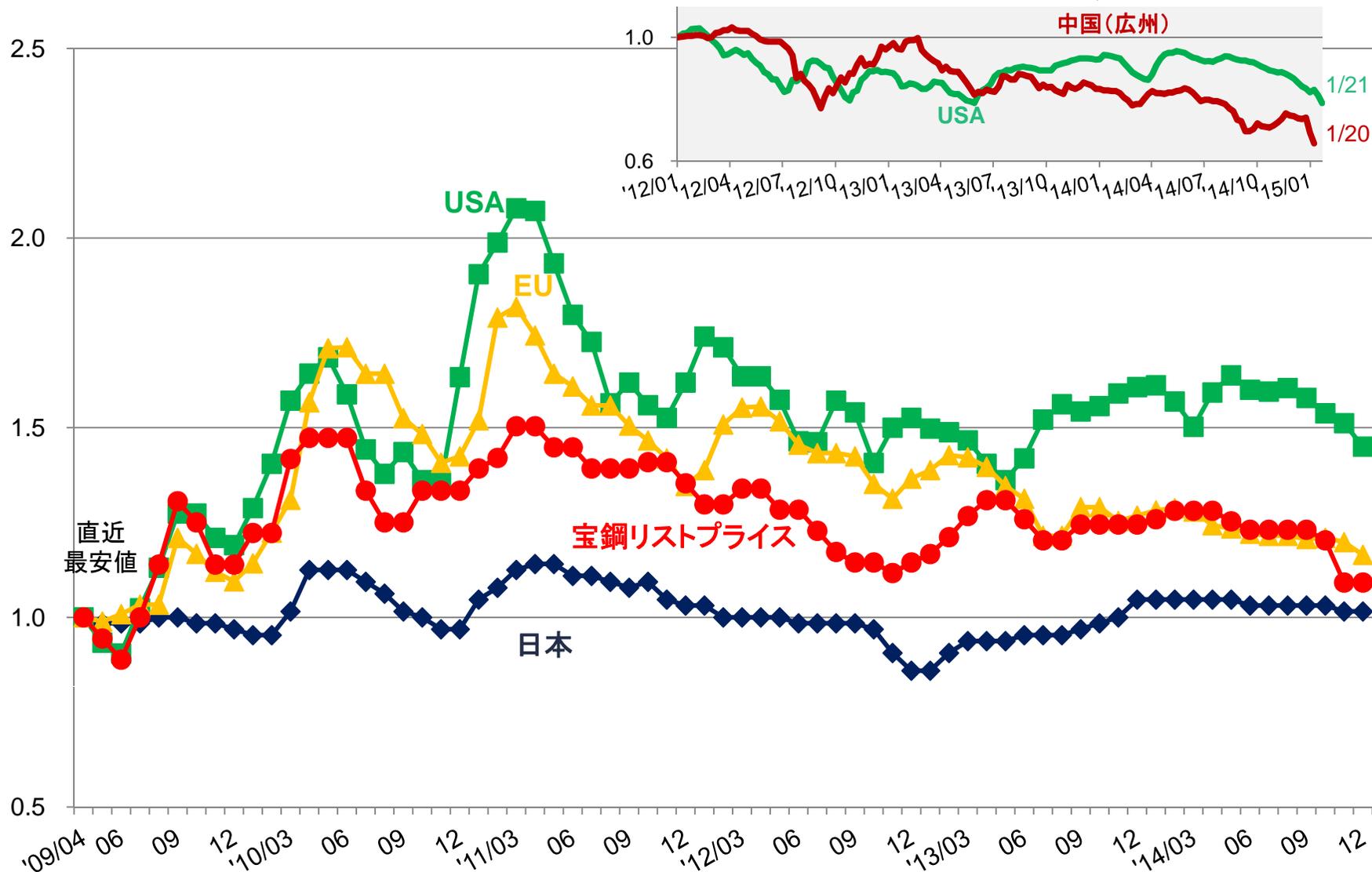
(出所 : World Steel Association)

\* 世界65カ国の合計値

# 世界各国ホットコイル市況推移

(2009年4月各現地通貨ベースホットコイル価格=1.0)

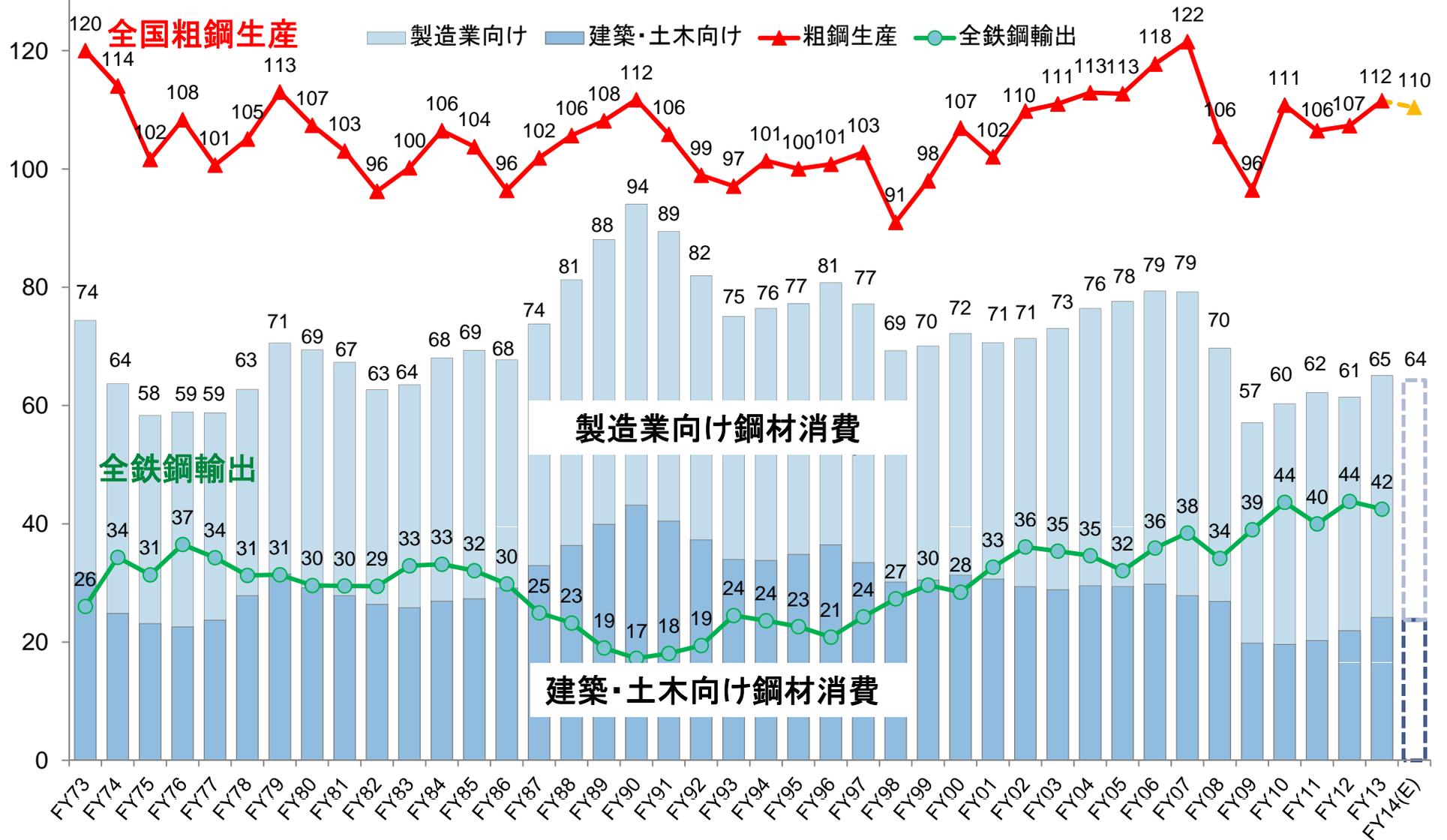
cf1) 直近の米国・中国(広州)市況 (2012年1月起点)



(出所: 日本鉄鋼連盟等データより当社作成)

# 国内鋼材消費推移

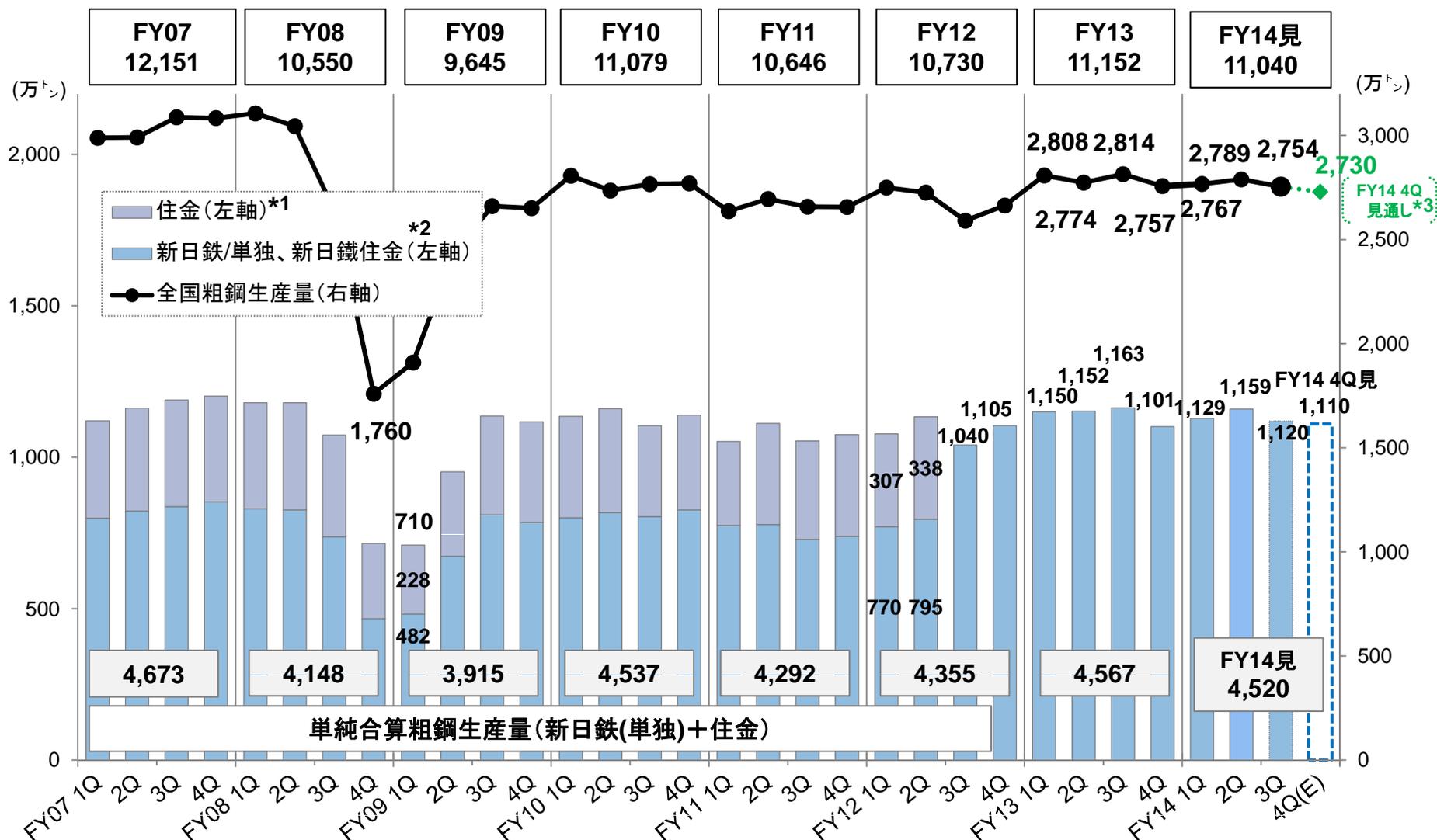
(百万ト)



(出所:各種統計資料・当社推定)

# 国内粗鋼生産量 四半期別推移

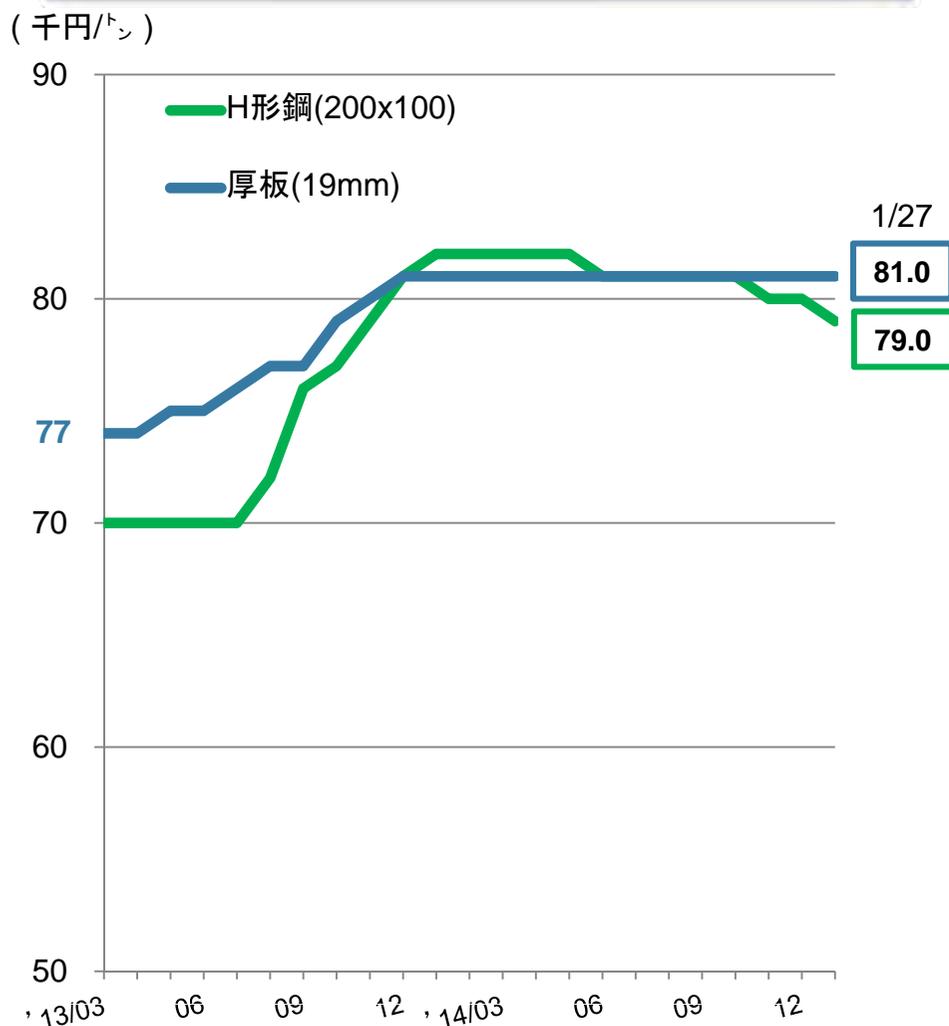
全国粗鋼生産量



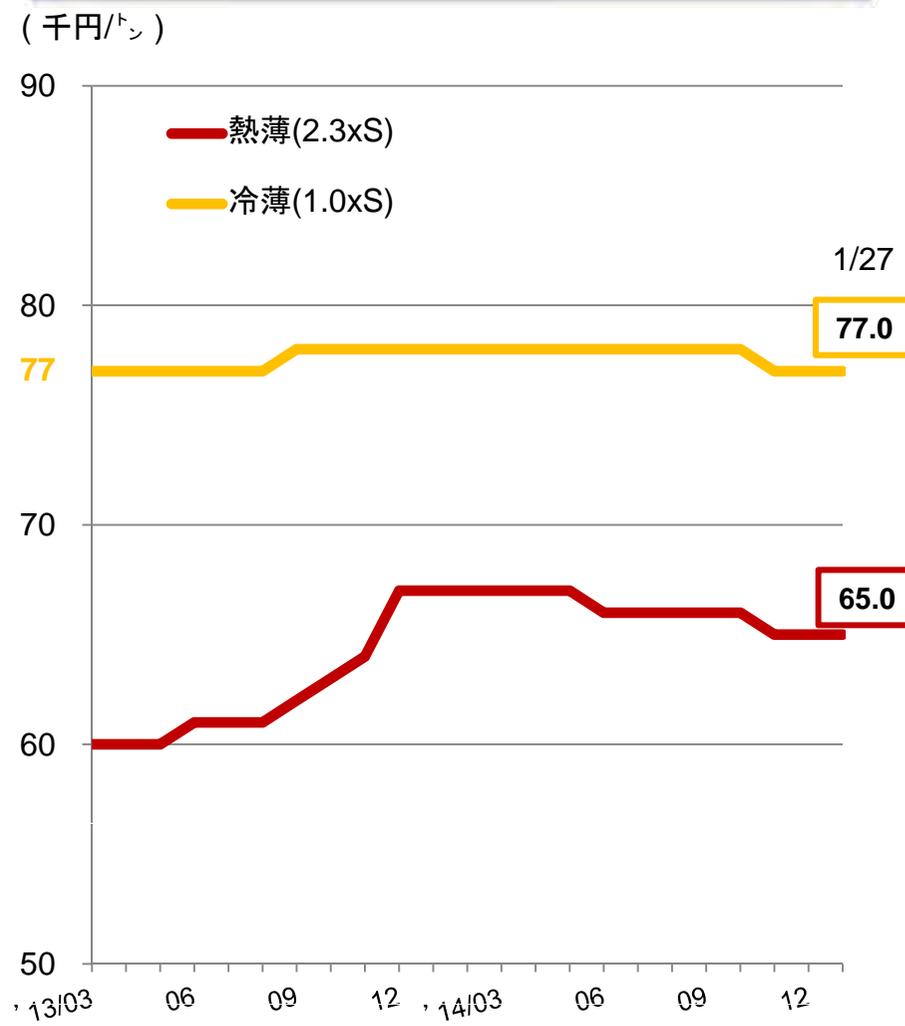
\*1 住金: 旧住金小倉・住金直江津・住金鋼鉄和歌山含み      \*2 新日鐵住金: 日鉄住金鋼鉄和歌山含み

\*3 経済産業省発表 FY14 4Q鋼材需要見通し(2014/12/24)

## 厚板・H形鋼



## 熱延・冷延

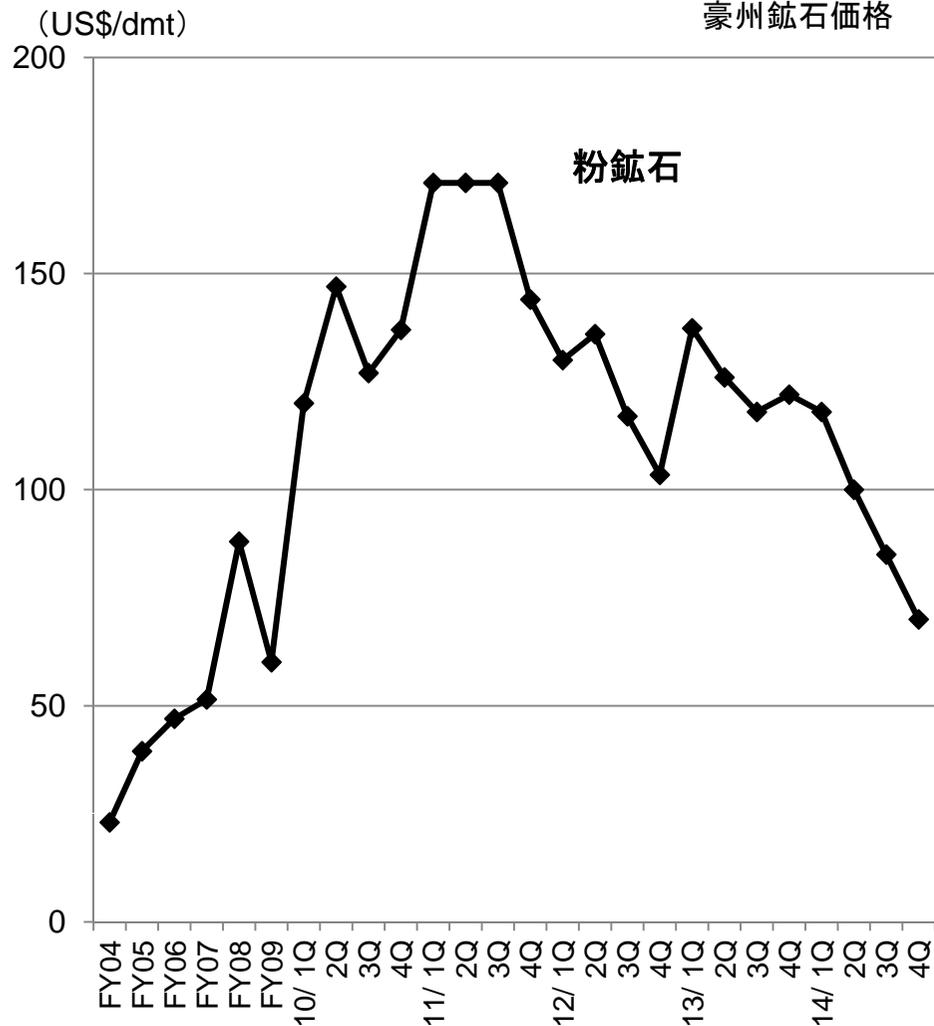


(出所: 鉄鋼新聞・月末・東京安値、問屋間仲間相場価格)



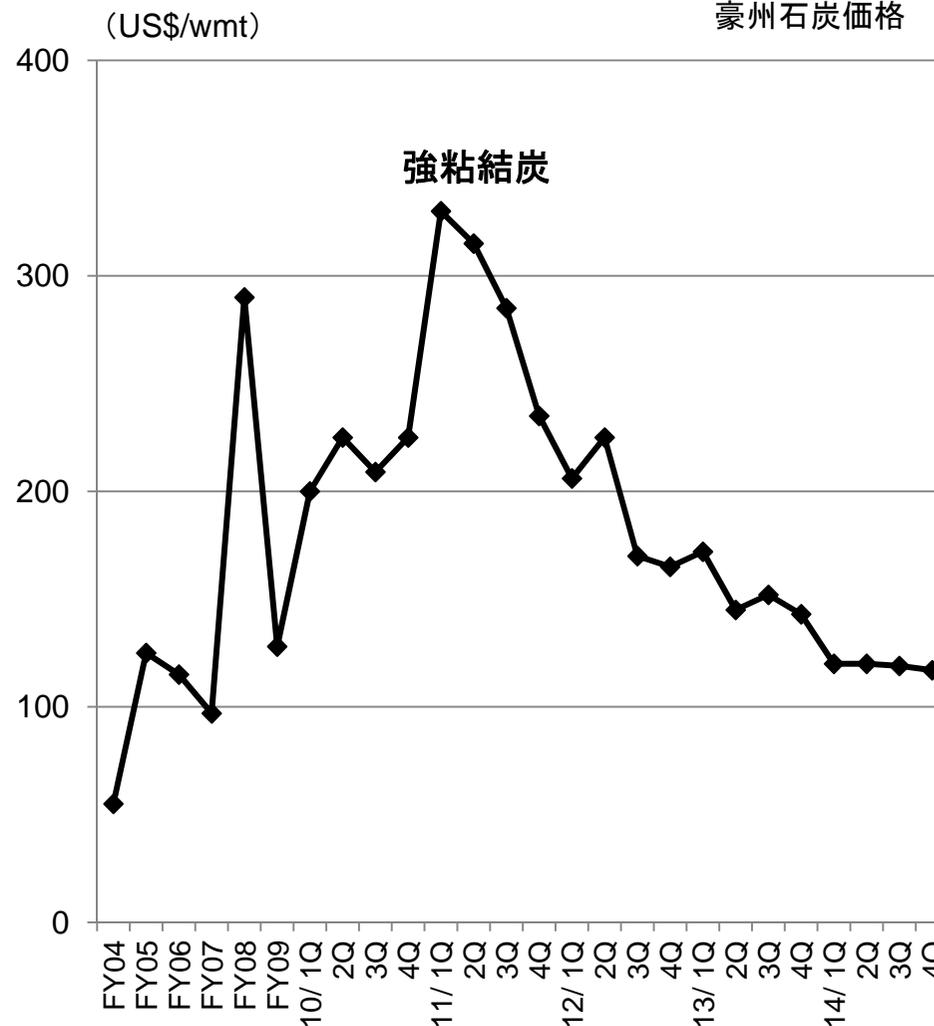
### 鉄鉱石

豪州鉄鉱石価格



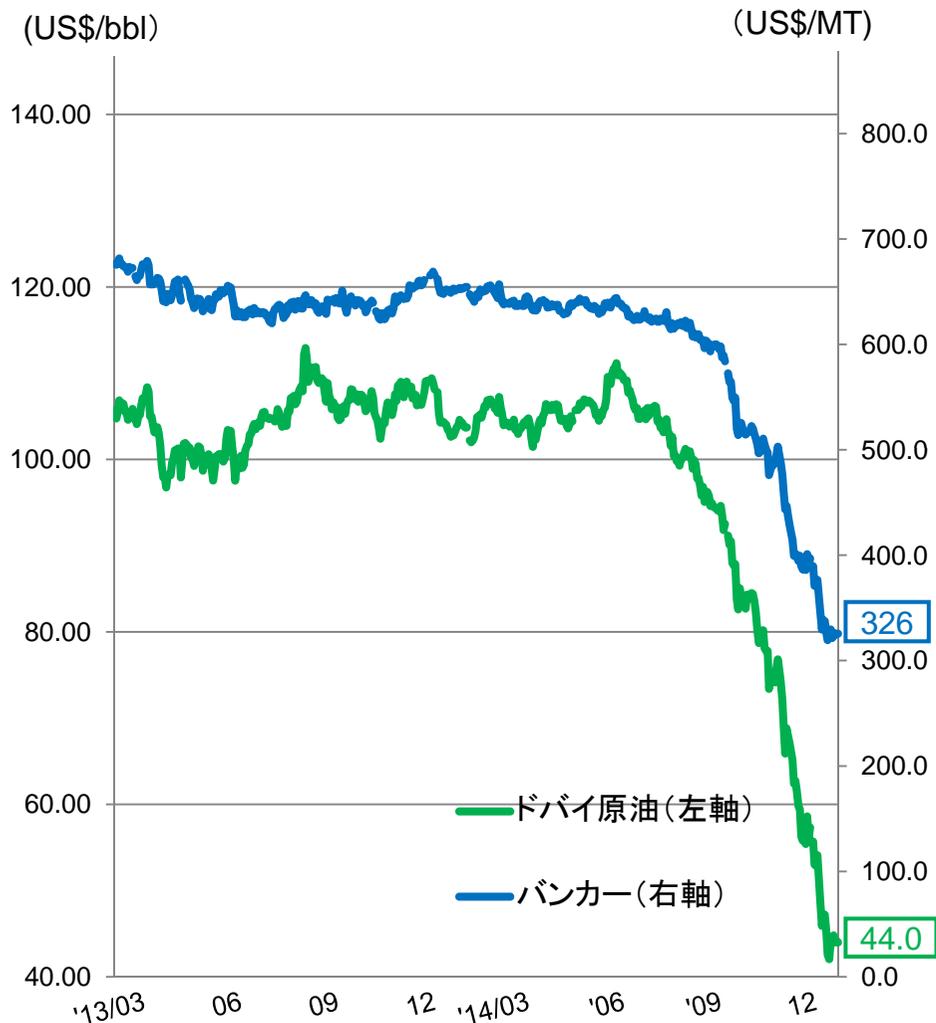
### 原料炭

豪州石炭価格

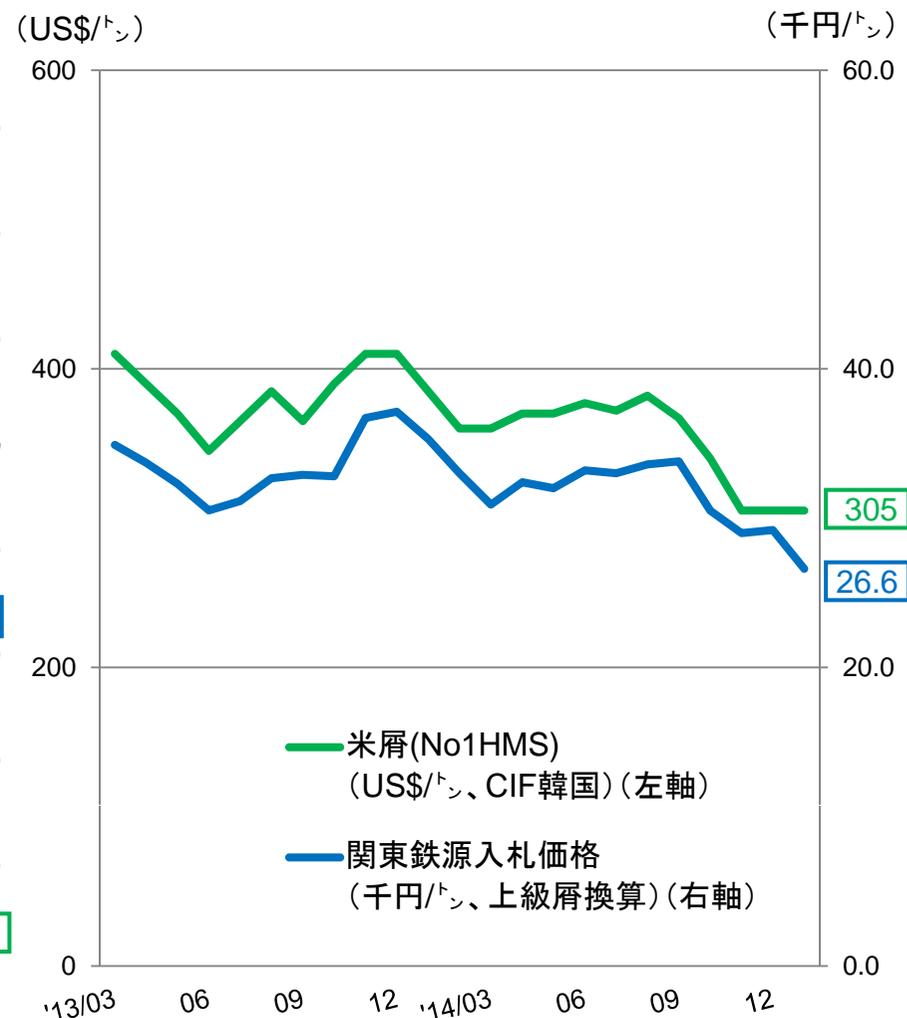


# 原料市況 <原油・スクラップ>

## 原油



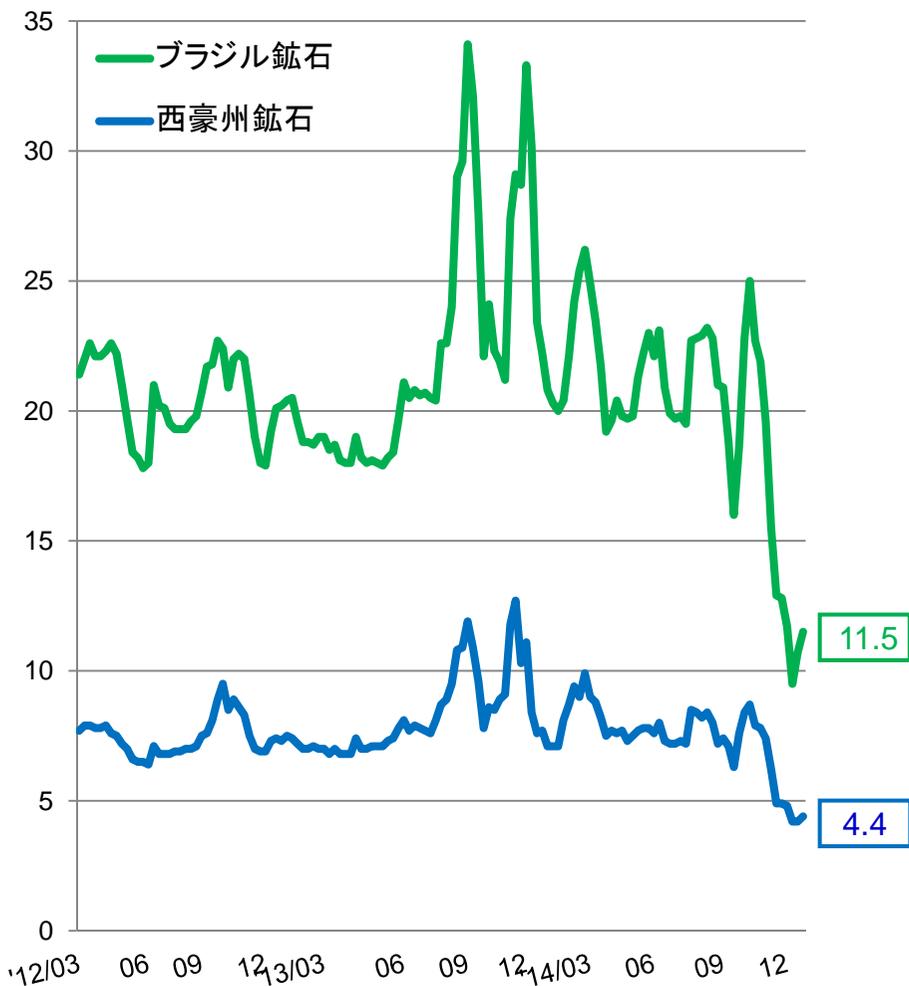
## スクラップ



# 原料市況 <フレート・型鉄>

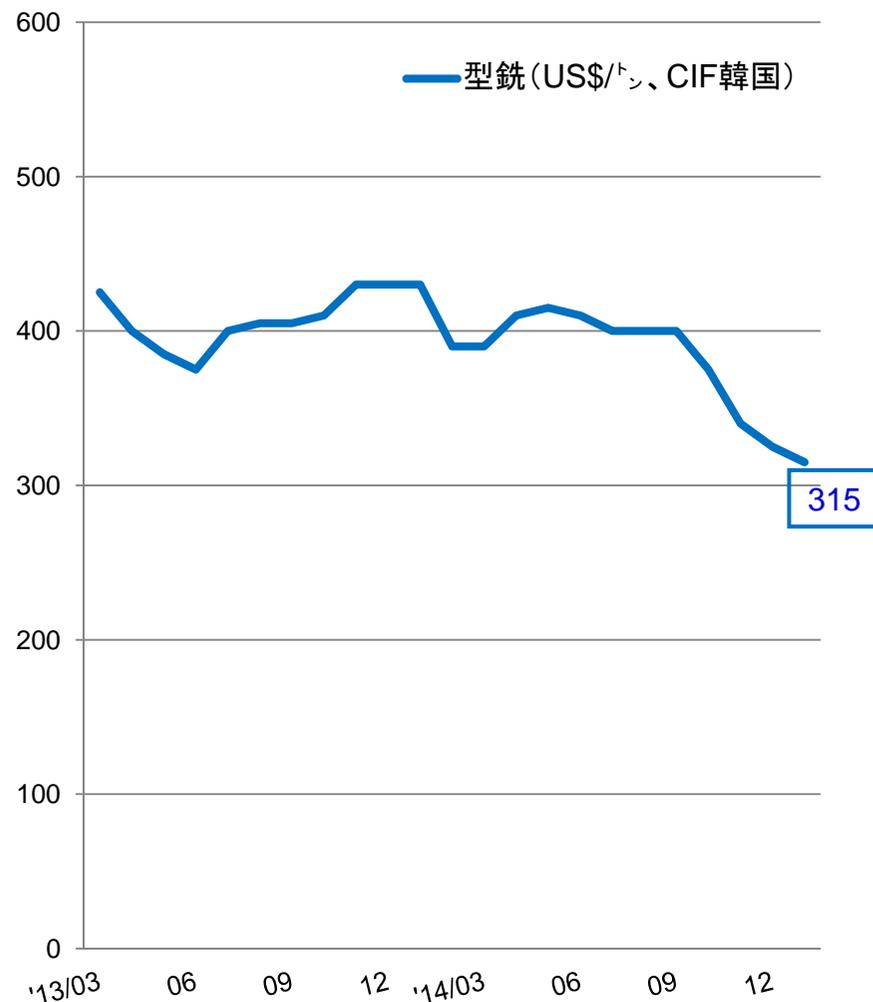
## フレート

(US\$/WMT, ケープサイズ 170千t船型)

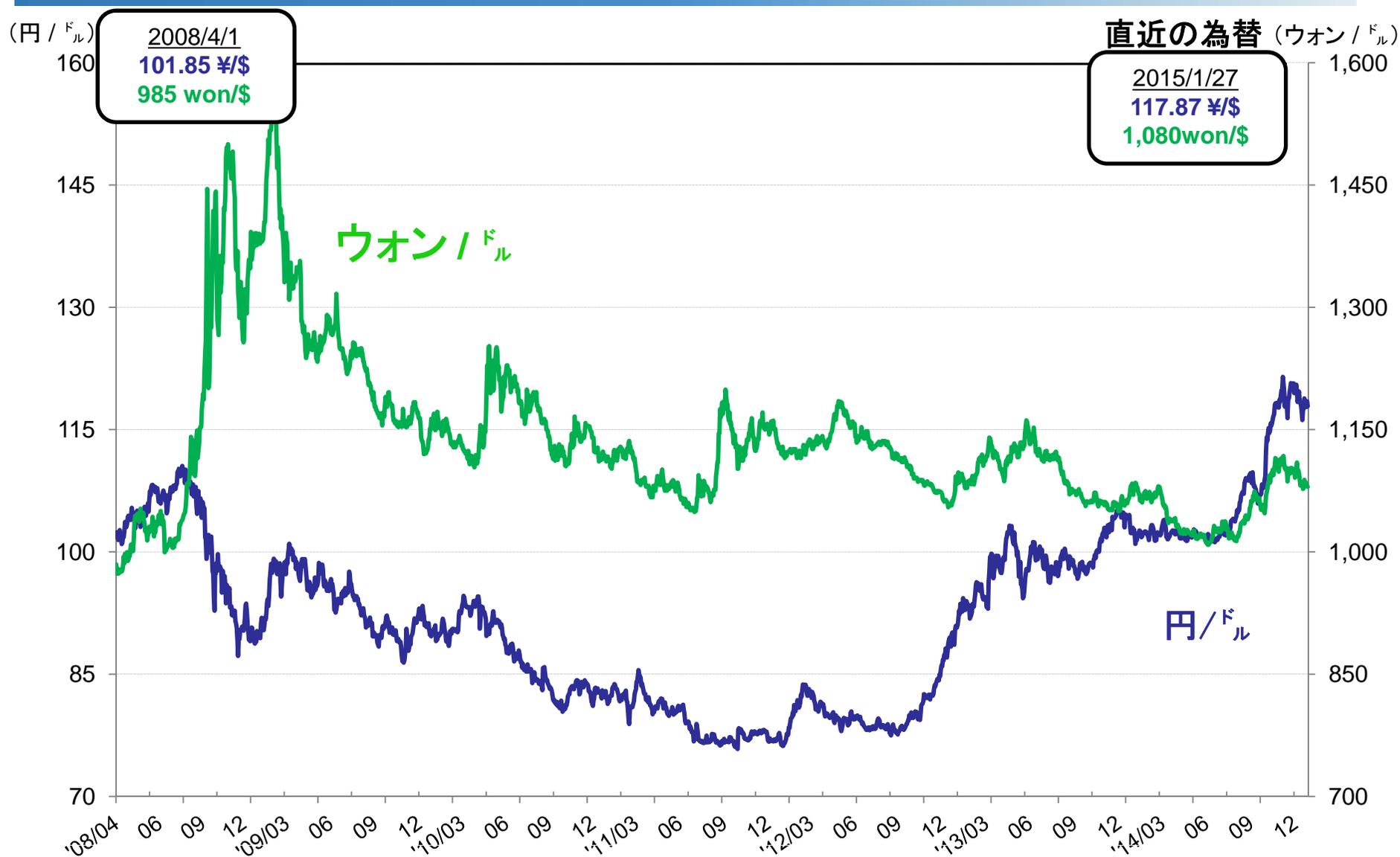


## 型鉄

(US\$/T, CIF 韓国)



# 為替推移 (円/ドル, ウォン/ドル)



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。